東日本大地震

十勝毎日新聞

発行所：十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

号外

津波の影響で浸水した仙台空港（ＮＨＫテレビから）

M8.4 東北で大津波

気象庁によると、11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード（M）8・4の地震が起き、宮城県北部で震度7を観測した。同3時15分にもM7・4の余震があり、茨城県南部などで震度6弱を観測した。気象庁は北海道から関東地方までの太平洋岸に大津波警報を発令。仙台新港に高さ10㍍の津波が到来したほか、同3時50分に福島県相馬市で同7・3㍍、同21分には岩手県釜石市で同4・1㍍の津波を確認した。

宮城震度7

岩手、宮城、福島、茨城各県によると、岩手県釜石市、宮古市、山田町や宮城県の沿岸部を津波が襲い、家屋が流されている。宮城県では東北自動車道が多数箇所で損壊、同県柴田町では民家が倒壊。県警によると、石巻市で落下物により1人が死亡。他に仙台市で中学生の男子が津波に流され、行方不明になっている。茨城県高萩市では屋根が崩落し1人死亡。消防によると、岩手県久慈市侍浜町の桑畑漁港でも男性1人が死亡した。福島県では土砂崩れで5世帯8人が行方不明になっている。

警察庁によると、岩手県釜石市内では橋が崩落。釜石港付近では、津波で車約20台が巻き込まれたとの情報があるという。

東京消防庁によると千代田区の九段会館では天井が落下、25人の負傷者が出ている他、東京・お台場や池袋など10カ所で火災が起きている。

経済産業省原子力安全・保安院は、東北電力女川原発は運転を自動停止。東京電力福島第一、第二原発も運転を自動停止したと発表した。

岩手、宮城、福島、千葉各県の太平洋沿岸で今後予想される津波の高さは10㍍以上、青森は同8㍍という。

気象庁は「東北地方太平洋沖地震」と命名した。

主な各地の震度

午後2時46分の地震で、主な各地の震度は次の通り。

震度7＝宮城県栗原市
震度6強＝仙台市、福島県白河市、茨城県日立市、宇都宮市
震度6弱＝宮城県気仙沼市、福島県郡山市、水戸市、栃木県大田原市、岩手県釜石市、群馬県桐生市、埼玉県宮代町、千葉県成田市

帯広震度４ 十勝にも津波

沿岸４町で避難指示

津波で岸壁のトイレが水没した十勝港漁港区（11日午後3時55分ごろ、長田純一撮影）

十勝管内では沿岸４町（広尾、大樹、豊頃、浦幌）の海岸線の地区に避難指示を出した。

豊頃町は午後3時5分、災害対策本部を設置。同25分、大津地域の１４９戸、３３８人に避難勧告し、同42分避難指示に切り替えた。住民は大津コミュニティセンターに避難した。同町大津漁港では午後3時45分ごろ急激に水位が下がり、同4時ごろ津波が岸壁を越え、同港敷地内に流れ込んだ。大津漁協の1階は水浸しになった。

広尾町は午後3時半、十勝港から音調津までの住宅２２７戸、４９８人に避難指示を出した。午後3時50分ごろには、津波が岸壁に上がり、トイレや軽自動車が水に浸かった。同港の一部では30㍍ほど津波が流れ込んだ。大樹町も浜大樹、旭地区の計85世帯２６５人に避難指示を出した。

帯広市内の各学校によると、一部の小学校では机の下に隠れて揺れが収まるのを待った。集団下校した学校もあった。

ＪＲ北海道によると、道東地域を含めほぼ全区間で運転を見合わせた。午後4時38分に帯広駅に着いたＪＲ根室線・特急「スーパーおおぞら7号」は、地震のため帯広―釧路間の運転を取りやめ、バス4台で代替輸送した。

帯広開発建設部は11日午後2時46分、鎌田貢次部長を本部長とする津波災害警戒本部を設置した。帯広土木現業所は11日午後3時すぎから、津波の恐れのため太平洋岸沿いの道道の一部を通行止めとした。

旧歴舟小に避難した大樹町浜大樹地区の住民（11日午後4時ごろ、佐藤圭史撮影）

管内各地の震度

管内各地の震度は次の通り。

▽震度4＝鹿追、音更、帯広、芽室、池田、浦幌、更別

▽震度3＝上士幌、新得、足寄、士幌、清水、幕別、豊頃、本別、中札内、広尾